

令和8年度 発生予察情報	発生予報第5号（概要版）	令和8年8月 27 日発行 宮城県病害虫防除所 (TEL:022-275-8982)
-----------------	---------------------	--

品目	病害虫名	発生予報	病害虫名	発生予報
大豆	紫斑病	発生量: 平年並	べと病	発生量: 平年並
	吸実性カメムシ類	発生量: 平年並	フタスジヒメハムシ	発生量: やや少
	マメシンクイガ	発生量: やや少	—	—
りんご	斑点落葉病	発生量: やや多	褐斑病	発生量: 多
	果樹カメムシ類	発生量: 平年並	ハダニ類	発生量: 平年並
トマト	アザミウマ類	発生量: やや多	コナジラミ類	発生量: やや少
ねぎ	黒斑病・葉枯病	発生量: 多	シロイチモジヨトウ	発生量: やや多
	ネギハモグリバエ	発生量: やや多	—	—
いちご	うどんこ病	発生量: やや多	炭疽病	発生量: 平年並
	ハダニ類	発生量: 平年並	—	—
作物共通害虫	オオタバコガ	発生量: 平年並	ハスモンヨトウ	発生量: 平年並

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。 宮城県病害虫防除所 https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/ 次回、発生予報第6号の発行日は令和8年9月16日(水)の予定です。 ★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で 発生予察情報の発表をお知らせしています★	  宮城県病害虫防除所 メルマガ トップページ 登録フォーム
---	---

令和8年度 発生予察情報	発生予報第5号—大豆—	令和8年8月27日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	--------------------	--------------------------

—9月下旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:8月17～20日

天候予報:仙台管区気象台8月20日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
紫斑病	—	平年並

予報の根拠

- (1) 前年の子実調査の結果、発生量が平年並であったことから、伝染源量は平年並と推測される。(/ ±)
- (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並(/ ±)、発病株率は平年よりやや低かった。(/ -)
- (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
吸実性カメムシ類	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生頭数は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
フタスジヒメハムシ	—	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや低く(/ -)、寄生頭数は平年並であった。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
マメシンクイガ	—	やや少

予報の根拠

- (1) 前年の子実調査の結果、発生量がやや少なかったことから、越冬量はやや少ないと推測される。(/ -)

予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず

発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

・大豆の生育ステージをよく確認し、各病害虫に対して適期防除を行う。

※本年の開花期(作況試験:大崎市古川大崎)(古川農業試験場発表)

タンレイ(5/25 播種): 7/24(平年差+3日)

ミヤギシロメ(5/25 播種): 8/2(平年差+5日)

ミヤギシロメ(6/12 播種): 8/8(平年差+4日)

- ・病虫害の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・べと病及び土壌伝染性病害(茎疫病、黒根腐病)の発病を防止するため、明きょ等の補修・点検を行い、排水対策を徹底する。

(2) 紫斑病

- ・大豆の生育ステージをよく確認し、開花期の 20～40 日後に1～2回薬剤防除を実施する。
- ・QoI 剤に対する感受性低下菌の発生が確認されているので、薬剤の効力低下が懸念される場合は、他系統の薬剤の使用を検討する。

※普及に移す技術第 99 号参考資料「ダイズ紫斑病の QoI 剤に対する薬剤感受性低下」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/r05sankou20.pdf>

(3) ベと病

- ・発生が著しい場合は単独防除する。

(4) 吸実性カメムシ類

- ・開花期以降に発生が見られるほ場では、着莢期から子実肥大中期を重点に2回以上薬剤を散布する。
- ・越冬地(雑草地、山林等)付近では、発生が多くなる恐れがあるので注意する。

(5) フタスジヒメハムシ

- ・第2世代成虫の発生盛期(平年:8月下旬～9月上旬)に薬剤散布を実施する。

(6) マメシンクイガ

- ・発蛾最盛期とふ化盛期(8月下旬とその7～10 日後の9月上旬)にかけて1～2回薬剤を散布する。
- ・本虫による被害は、ダイズの連作4年目以降から特に被害が大きくなることが知られている。連作ほ場や前年の発生が多かったほ場では、薬剤の選定に留意する。

(7) 食葉性チョウ目幼虫(オオタバコガ、ツメクサガ等)

- ・中齢幼虫以上になると葉及び莢を加害し、被害が大きくなるので、早期発見・早期防除に努め、若齢幼虫期に薬剤防除を実施する。
- ・突発的に集中発生することもあるため、ほ場を注意して見回る。

※普及に移す技術第 98 号参考資料「大豆栽培におけるタバコガ類に対するフルベンジアミド水和剤の防除効果」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/22r04sankou11.pdf>

《お問い合わせ先》

宮城県病虫害防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病虫害防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和8年度 発生予察情報	発生予報第5号 ーりんごー	令和8年8月 27 日発行 宮城県病虫害防除所
-----------------	----------------------	----------------------------

ー収穫期までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:8月 17～21 日
天候予報:仙台管区气象台8月 20 日発表

1 発生予報

病虫害名	発生時期	発生量
斑点落葉病	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、徒長枝葉では発生地点率は平年並、発病葉率は平年より高く、新梢葉では発生地点率は平年よりやや低く、発病葉率は平年より高かった。(/ ± ～ +)
- (2) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病虫害名	発生時期	発生量
褐斑病	ー	多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年より高かった。(/ +)
- (2) 気温 20～25℃で多雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/ ± ～ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病虫害名	発生時期	発生量
果樹カメムシ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、被害果の発生地点率は平年よりやや高く、被害果率は平年並であった。(/ ± ～ +)
- (2) フェロモントラップ調査では、誘殺数が少ない状況が続いている。(/ ー)

病虫害名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、ハダニ類の発生は確認されなかった。(/ ー)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・品種による収穫期の早晩を考慮し、収穫前日数に注意して薬剤を選定する。
- ・最終散布を早めに切り上げると、晩生種で、果実に斑点落葉病、褐斑病、すす点病、すす斑病等が発生し、シンクイムシ類等の食害を受ける場合があるので、生育状況と収穫時期にあわせた防除を行う。

- ・被害部位(果実、葉、枝)は翌年の病虫害の発生源になるので、ほ場内に放置せず、適切に処分する。
- ・病虫害の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

(2) 斑点落葉病

- ・収穫期まで常に発病の可能性があります、特に徒長枝や二次伸長した新しい展開葉等では発生しやすいので、発生状況を観察して防除を実施する。
- ・降雨が続くと発生が急増する場合があるので、定期的に防除を実施する。

(3) 褐斑病

- ・果実感染時期は9月頃とされるため、発病が目立つ場合は、収穫期まで防除を適切に実施する。

(4) 果樹カメムシ類

- ・例年被害が大きい園地では被害果が確認されているので、摘果作業時にはほ場内を注意深く観察し、被害果実を見つけ次第摘果するとともに、ほ場への飛来数が目立つ場合は、カメムシ類に登録のある農薬を散布する。
- ・フェロモントラップ調査結果を参照する <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/trap.html>

(5) ハダニ類

- ・ほ場をよく見回り、ハダニ類が1葉当たり3頭以上寄生している場合は防除を実施する。
- ・一部殺ダニ剤で効果が低下している事例がある。また、薬剤によっては寄生種や生育ステージにより効果が異なる場合があることから、発生状況をよく確認して薬剤を選定し、散布後の状況をよく観察する。

《お問い合わせ先》

宮城県病虫害防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病虫害防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和8年度 発生予察情報	発生予報第5号—トマト—	令和8年8月 27 日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	---------------------	----------------------------

—9月下旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:8月 17～19 日

天候予報:仙台管区气象台8月 20 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く、被害果率は平年並であった。(/ ± ~ +)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。
(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	—	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年より低く(/ -)、寄生株率は平年並であった。(/ ±)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm 目合い)を設置する。
- ・ウイルス病の発病株は、見つけ次第抜き取り施設外へ搬出し適切に処分する。
- ・植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布むらや病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に栽培管理を行う。病害虫が多発してから防除は困難になるので、初期防除の徹底を心掛ける。
- ・訪花昆虫を利用する場合は、訪花昆虫の影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

(2) アザミウマ類

- ・卵から成虫までの発育期間は 25℃で約 14 日であるので、発生が多い場合は、7日間隔で2～3回 RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

(3) コナジラミ類

- ・主に葉裏に寄生し吸汁加害するので、ほ場をよく見回り早期発見、早期防除に努める。多発時は卵、蛹、成虫が混在するため、7日間隔で RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

- ・散布むらがあると薬剤の効果が低くなるので、薬剤がかかりやすいよう葉かきや誘引を行い、葉裏を含め植物全体に薬剤が十分にかかるよう丁寧に散布する。
- ・タバココナジラミはトマト黄化葉巻病を媒介するので注意する。また、黄化葉巻病が発生した場合は、栽培終了後に施設を密閉し、ウイルスの媒介虫を死滅させる。

(4) 黄化葉巻病

- ・トマト黄化葉巻ウイルスを保毒したタバココナジラミがトマトを吸汁することにより、病気が伝搬される。本県では、夏秋作後半、抑制作、長期作型で発病が確認されており、9～11月に発病の報告が多い。
- ・発病初期は、生長点付近の葉が黄化し縮葉する(図1)。
- ・発病後は成長が止まり、開花しても結実しないことが多く、発病が確認された株は伝染源となるため、速やかに抜き取り、適切に処分する(ビニール袋に詰め、密閉し枯死させた後、土中に埋める等の処分を行う)。
- ・栽培終了後はタバココナジラミを施設の外に出さないことが重要であるため、株を地際で切断してハウスを密閉するか、キルパー処理を行い、完全にトマトを枯死させてから施設外へ持ち出す。タバココナジラミ成虫は餌となる植物がなければ数日中に死滅する。



図1 黄化葉巻病発病初期

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー9月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:8月 17 日～19 日

天候予報:仙台管区气象台8月 20 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒斑病・葉枯病	ー	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く(/+)、発病度は平年より高かった。(/+)
(2)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
シロイチモジヨトウ	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く(/+)、寄生株率は平年よりやや高かった。(/+)
(2)高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギハモグリバエ	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く(/+)、被害度は平年並であった。(/±)
(2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- いずれの病害虫也多発してからでは防除が困難になるため、発生初期の防除に努める。
- 病害虫の薬剤抵抗性発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

(2)黒斑病・葉枯病、さび病、べと病

- 多湿(降雨、滞水)により発病が助長されることから、排水が悪いほ場では明きょを設けるなど、排水対策を行う。
- 草勢が衰えると多発する傾向があるので、適正な肥培管理を実施する。

(3)シロイチモジヨトウ

- 卵塊やふ化直後の幼虫の集団を早期に見つけ、捕殺する。
- 幼虫がねぎの葉身内へ食入して薬剤がかかりにくくなるため、被害を確認したら直ちに防除を実施する。また、中齢幼虫期以降になると薬剤が効きにくくなるため、若齢幼虫期のうちに薬剤散布を行うよう努める。

(4)ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ

- ・ほ場内及びほ場周辺の雑草は、これら害虫の発生源となるので除草に努める。
- ・ネギアザミウマはウイルス病を媒介することがあるので、ほ場を観察し適切に防除を行う。
- ・近年、従来のネギハモグリバエと異なり、著しい食害痕を呈するバイオタイプ B の発生が広域で確認されているため、防除を徹底する。

《お問い合わせ先》

宮城県病虫害防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病虫害防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和8年度 発生予察情報	発生予報第5号—いちご—	令和8年8月 27 日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	--------------	----------------------------

—9月下旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:8月 19～21 日

天候予報:仙台管区気象台8月 20 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	—	やや多

予報の根拠

(1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、発病株率は平年より高かった。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
炭疽病	—	平年並

予報の根拠

(1) 巡回調査の結果、発病株は確認されなかった。(/ -)

(2) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。
(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	平年並

予報の根拠

(1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並(/ ±)、寄生株率は平年よりやや多かった。(/ +)

(2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。
(/ ±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず

発 生 量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- 適切な肥培管理及び予防防除を徹底し、健苗育成に努める。
- いちごの農薬使用回数は、親株からランナーを切り離した時点から収穫終了までとなる。
- 本ぼの初期病害虫発生原因の多くは育苗からの持ち込みであるので、育苗期間中もしっかり防除を行う。
- 施設周辺及び施設内の雑草は害虫の発生源なので、場周辺の除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達を防止するため、RAC コードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。
- 定植後に天敵製剤や訪花昆虫を利用する場合は、影響日数に注意して使用薬剤を選択する。

(2) うどんこ病

- 本ぼに感染した苗を持ち込まないよう、定植前まで防除を徹底する。

- ・最初に葉裏に発生しやすいので、こまめに葉裏を観察して早期発見に努め、発生初期に防除を実施する。また、一見病徴が見えない場合でも、うどんこ病に効果のある殺菌剤をローテーションに組み込み、防除を実施する。

(3)炭疽病

- ・発病株は伝染源となるので、ほ場内をよく見回り見つけ次第早急にその周辺の株も含め抜き取り、適切に処分する。
- ・水滴の跳ね上がり等で伝染するので、育苗ほでは可能な限り頭上かん水は避け、かん水チューブや底面給水等によりかん水を行う。また、葉の濡れ時間が長くなならないよう遅い時間のかん水は避け、日没までに水滴が乾くよう実施する。
- ・高温多湿は病原菌の増殖に好適であるとともに、苗が軟弱になり炭疽病にかかりやすくなるとされるので、ハウスの排水対策を徹底する。また、遮光率の高い遮光資材はかけっぱなしにせず必要に応じて開閉し、ハウス内の日照量を増やすなどして健苗育成に努める。
- ・予防散布の徹底が重要であり、薬剤抵抗性の発達を防ぐため RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。ただし、QoI 剤 (FRAC:11) や MBC 剤 (FRAC:1) の耐性菌が、県内の広い範囲で確認されているので留意する。

※「普及に移す技術」第 100 号参考資料「宮城県内におけるイチゴ炭疽病菌の薬剤耐性」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/60672/r06sankou13.pdf>

※「普及に移す技術」第 101 号参考資料「宮城県内におけるイチゴ炭疽病菌の薬剤耐性と菌種(追補)」

https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/r7_101_sankou19.pdf

(4)ハダニ類

- ・気門封鎖剤は、対象害虫にかからないと効果が得られないため、植物体全体にむらなく散布するとともに、薬害が出やすいため、あらかじめ数株に散布して薬害の状況を確認する。
- ・スピロテラマト水和剤の灌注処理を行う際は、薬剤をイチゴ苗に十分吸収させるため、灌注処理前の灌水は控える。灌注処理を行う際は、水圧は弱めにし丁寧に行う。
- ・ほ場により効果が低下している殺ダニ剤があるため、薬剤の選定に留意し RAC コードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー9月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:8月 17～21 日

定点調査は:名取市高館(農業・園芸総合研究所)、大崎市古川大崎(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台8月 20 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
オオタバコガ	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、大豆での発生地点率は平年よりやや低く(/ー)、トマトの被害果発生地点率は平年よりやや高かった。(/+)
- (2) フェロモントラップ(地点数:2)での誘殺数は平年並であった。(/±)
- (3) 高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハスモンヨトウ	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった(トマト)。(/±)
- (2) フェロモントラップ(地点数:2)での誘殺数は平年並であった。(/±)
- (3) 高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

- ・多くの植物を餌にする広食性害虫であり、作物、果樹、野菜、花き等の多くの作物を加害するため、こまめにほ場を見回り早期発見に努め、中齢幼虫までに薬剤防除を行う。
- ・幼虫の齢期が進むにつれて防除効果が低下するので、若齢幼虫期での防除を心掛ける。
- ・施設栽培では開口部へ防虫ネットを設置し、成虫の施設内部への侵入を防ぐ。
- ・薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・フェロモントラップ調査結果を参照する <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/trap.html>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム